



# 田園と歴史の 香りを呼吸して 東武健康 ハイキング

こんにちは、あずまです。今月は母、そして地元ふじみ野に暮らす赤塚さんと一緒に、東武健康ハイキング「籬波田城・水子貝塚ウォーキング」に参加してきました。ここはゴールの「水子貝塚公園」です。疲れが吹き飛ぶような、鮮やかな芝生の緑。復原された縄文時代の住居群を眺めながら、お弁当を食べました。(MAPの㊤)

## 今回の登場人物



**赤塚美津子**  
あずまの叔父、赤塚四郎の妻にして旅行ライター。埼玉県ふじみ野に暮らす。



**業平道子**  
あずまの母親。小学生向けの英会話教室を経営する。趣味は園芸。



**業平あずま**  
業平家の長女。母親が経営する英会話教室を手伝う。趣味は旅行。



平成5年11月に開業した新しい駅です。東口の駅ビル「ふじみ野ナレ」の中に東武ストアがありました。朝9時から営業しているので、途中で食べるおやつを買いました。

# ふじみ野くみずほ台

(ふじみのくみずほだい)

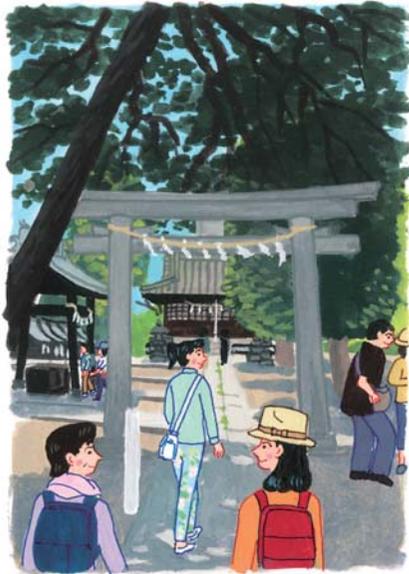
毎回、参加者に好評の「東武健康ハイキング」。6月15日には、「籬波田城・水子貝塚ウォーキング」が開催されます。今回歩く「ふじみ野駅」から「みずほ台駅」にかけて、なだらかに広がる武蔵野台地は、いままさに初夏。田園風景の中で観る城跡公園や貝塚など、珍しい歴史スポットは必見です。ハイキングに参加されなくても、お好きなときにのんびりと散策をお楽しみください。



左手に「八幡神社」が見えてきました。この辺り、駒林地区の総鎮守で、室町時代中期の創建だそうです。長い並木道の参道が気持ちよさそうですね。次の機会にお社をじっくり見ることにして、今回は眺めるだけで我慢。(MAPの③)



池袋から急行で約25分。ふじみ野駅に到着。駅前で赤塚さんと待ち合わせ、そのまま「難波田城・水子貝塚ウォーキング」の受付へ。平地のハイキングですが、やっぱりリュックに帽子、履き入れたスニーカーが"いいですね。



ここは「阿蘇神社」、農耕神を祀るお社です。創立年代は不明ですが、明治5年に村社になったとか。本殿の中を見ると、古風な雰囲気、鏡が鎮座していましたよ。保存樹に指定されているクスノキも見事です。(MAPの④)



駅前から続く道は、歩道が広くて快適。のどかな住宅街を歩いていきます。さぎの森小学校を過ぎたところには広大な畑が広がっていて、見晴らしが素晴らしい! 遠くにさいたま新都心のビル群もみえましたよ。(MAPの⑤)

一休みしたら、いよいよ今日のウォーキングも佳境。次に訪れる「難波田城公園」は、この機会にじっくり注目したいところです。

阿蘇神社の由緒は古く、郷土史にも記載される存在です。このあたり一帯がまだ村だった昔から「鎮守様」として親しまれてきました。江戸時代の名所案内にもその名が記されているそうです。いまはさり気ない佇まいですが、静かに時代を経た拝殿と続く本殿、その横にある大クスノキ(市指定天然記念物)の姿にも、なぜか懐かしさが漂います。

「阿蘇神社」が見えてきます。ちよつと距離はありますが、左手に駒林の総鎮守・八幡神社の社を眺めたり、展望のよい鷲森高架橋を通ったり。やがて新河岸川を渡れば、すぐ「阿蘇神社」が見えてきます。周囲は武蔵野台地の中でも広々と開けた、なだらかな平地。富士見市の名の由来となったように、昔はどこからでも富士山が望めたという豊かな土地柄が偲ばれます。

基本的な進行方向の右側を歩くこと。こうすると交通量の多い車道を横切ることなく、無理なく見どころを回れるよう、ルートがちゃんと配慮されているからです。

【ふじみ野駅】発  
初夏の武蔵野台地をウォーキング  
「難波田城・水子貝塚ウォーキング」のスタートは東上線「ふじみ野駅」の東口。10時から11時半の間に受付で申し込みを済ませてコース地図を入手したら、あとは自由に出発です。まずは、広い県道(272号)に出て、新河岸川方面に向かって歩きます。ここで、このウォーキングのコツは、



同じくここは城跡ゾーン。木橋や門、水堀・土塁などが復原されています。戦国時代を思い描こうにも、あまりに平和的な眺めでずか。園内の「難波田城資料館」では、中世から現代に至る歴史や民俗に関する展示が見られます。(MAPの⑤)



「難波田城公園」に到着。これは古民家ゾーンにある「旧大澤家住宅」。明治4年建造の建物を移築したもので、かつての名主の家の風情が伝わってきます。穀蔵という土蔵では、ビデオ映像の鑑賞もできます。(MAPの⑤)



ようやくゴールの「水子貝塚公園」に到着。堅穴住居の内部には、縄文時代の暮らしの様子を再現しています。国指定史跡の水子貝塚を紹介する「水子貝塚資料館」も必見!ここで解散。みずほ台駅まで、徒歩約25分です。(MAPの④)



山門に鐘楼があるのは「大應寺」という真言宗のお寺。「彩の国 武州十二支場めぐり」では、6年と普賢菩薩にあたります。弘法大師がこの地にやってきました。一寺を建立し、この地の名を水子とした、という伝説が残ります。(MAPの⑤)

「難波田城」の歴史は、中世に遡ります。ここには、かつて富士見市一帯を本拠地に活躍した難波田氏の居城がありました。現在では発掘調査を経て、広大な史跡公園として整備されています。園内は2つのゾーンに分かれ、まず、城跡ゾーンでは、三重の堀と土塁に囲まれた平城の仕組みが、歩きながら体感できます。一方、古民家ゾーンには、明治期の農家(市指定文化財)が3軒移築復原され、実際に土間に入ったり座敷に座ったり、庭先で休んだり広場でお弁当を食べたり...とくつろげます。また、「難波田城資料館」を見学すると、この土地の歴史と文化が浮彫りになってくるでしょう。

いまでこそ東上線が走りますが、それ以前の富士見市周辺は、川越と江戸をつなぐ新河岸川の舟運で開けた町。その川沿いの風景を楽しみ、さらに坂の上にある、立派な鐘楼門をもつ「水光山・大應寺」に参詣すると、道は最後の目的地「水子貝塚公園」「水子貝塚資料館」へと続きます。

国指定史跡の「水子貝塚」は、縄文時代前期の堅穴住居や、太古の食生活を示す貝塚が数多く発掘された場所。約6千年前には、なんと埼玉県にも貝の採れる海があったわけですから、改めて時の流れを感じます。園内は公園というより、縄文の森。緑鮮やかな敷地には貝塚跡のほか、復原された堅穴住居が点在し、その内部の様子まで見学できて、充実したひとときを過ごせます。

この公園でウォーキングも解散。最寄り駅の「みずほ台」では、帰りの電車が待っています。

えっ、埼玉にも海があったんだ!  
と発見しながら: 「みずほ台駅」着



**ふじみ野～みずほ台データファイル**

〈難波田城・水子貝塚ウォーキング〉・・・●日時  
 =6月15日(土) 10:00～11:30の間受付・  
 順次スタート ●受付場所=東上線「ふじみ野  
 駅」東口 ●コース=ふじみ野駅東口(受付)  
 ～阿蘇神社～難波田城公園～難波田城資料館  
 ～大應寺～水子貝塚公園(解散)～みずほ台  
 駅 ●全行程=約10km ●所要時間=約4時間  
 ●参加費=無料(交通費等は各自負担)  
 ☎東武鉄道お客さまセンター 03-5962-0102

〈富士見市立難波田城公園〉・・・●交通=志木  
 駅東口から東武バス富士見高校行き、興禅寺  
 入口バス停下車徒歩3分 ●開園時間=9:00  
 ～18:00(10月～3月は～17:00) ●入  
 園料=無料 ●休園日=なし  
 〈富士見市立難波田城資料館〉・・・●交通=難  
 波田城公園と同じ ●開館時間=9:00～  
 17:00 ●休館日=月曜(祝日の場合はその  
 翌日)、年末年始(12/29～1/3)、祝日の翌日  
 (土・日・祝日を除く) ●入館料=無料

☎049-253-4664

〈縄文ふれあい広場 水子貝塚公園〉・・・●交  
 通=みずほ台駅東口徒歩25分 ●開園時間=  
 9:00～18:00(10月～3月は～17:00)  
 ●休園日=なし ●入園料=無料  
 〈富士見市立水子貝塚資料館〉・・・●交通=み  
 ずほ台駅東口徒歩25分 ●開館時間=9:00  
 ～17:00 ●休館日=月曜(祝日を除く)、祝  
 日の翌日、年末年始 ●入館料=無料  
 ☎049-251-9686

[ご注意] 6月15日(土)のハイキングにご参加の方は、ハイキング当日に配布されるコース地図に従ってお歩きください。